

事業所名 NTTグループケアポート岡山
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年10月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 高等学校非常勤講師
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

岡山市の東部に位置し、広々とした郊外の田園地帯の中にある。周りは宅地化が進み、幹線道路からも近く、交通の便も良い。

2ユニットが1、2階と分かれてあり、各ユニットの特色がよく生かされている。デイサービス・居宅介護支援事業所が併設されており、多様性のある認知症高齢者に機能的に対応している。

複数の総合病院や近くの内科医院、歯科医院との連携があり、入居者の急変に充分対応できている。また、日常の身体機能維持・増進にも協力支援があり、入居者・家族は安心してホーム生活が送れる。

いつも寄り添っているという信頼感と一体感を持ってもらえるよう、スタッフルームからは直接共用空間の入居者を見守ることができる。そのことは入居者に安心感を与えており、入居者の表情も明るい。

フリーダイヤルを設置し、気軽に電話での問い合わせや相談に応じ、地域サービスに努めている。職員一同開かれたグループホームを目指して、自由にかつ活発に地域交流が行われている。

専任職員に加え、シルバーのパート職員が昼ご飯を準備するなど人的に手厚い介護を行っている。夜間は各ユニット1名ずつ2名の職員を配置し、状況によっては3名体制に強化しており、入居者への安全・接遇等においても質の高いケアを提供できている。

職員は、ミーティング等において意見交換を行い、内部研修も積み重ねている。外部研修へは、職員全員に参加する機会が与えられており、研修内容は職員全体で共有するように徹底し、介護資質の向上を目指している。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

改善点として特段指摘すべき点はない。

家族会・地域運営推進会議を活性化し、さらに深く入居者・家族の意見・ニーズをくみ上げ、運営方針にある「常に利用者の立場に立ったサービス」がより充実できるように希望します。

現在ターミナルケアに積極的に取り組むべく、諸々の研修等に尽力している。入居者の終の寝家として安心して余生が送れるよう、家族ひいては地元地域の人々に厚い信頼が生まれるよう努力されることを期待します。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>職員は人生の先輩である入居者の人格尊重に努め、「スタッフ倫理綱領」を定めて入居者・家族の人権を擁護し、配慮している。</p> <p>入居者の落ち着いた態度と笑顔の中にも表れているように、「共に支えあう」を理念として心温まる接遇を心がけている。</p> <p>看護師が常にバイタルチェック等入居者の健康管理には留意している。食事にも栄養士が入居者の身体状況に沿ったメニューを作り、入居者の健康保持に努めている。</p> <p>職員は、入居者・家族と同じ目線で、共に心地よく、心が安らぐような快適な生活環境を作っていくことを目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居居の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者の個性・特長・体質(病歴等)をよく把握し、入居者個々に職員の担当者を置いている。場合によっては医療経験者である看護師を担当に加えて2人体制で対応し、入居者の個性に合ったケアに取り組んでいる。</p> <p>個々の多様性に対応できるよう小さな共用空間をいくつか用意して馴染みの家具類を置き、気が休まる雰囲気を作っている。入居者の望む生活が営め、落ち着いた生活が送れることを目指している。広がりリビングにはBGMが流れており、テーブル・ソファ・畳コーナーと自由に居場所が確保できる。入居者がマイペースで過ごすことができ、孤独感を感じず落ち着ける場所作りを行なっている。</p> <p>入居者と職員が共に生活を支え合っているよう、同じ目線で一緒に暮らし意識を持ってコミュニケーションに努めている。目線に合わせて丁寧に接遇し、入居者に信頼と安心感を与えている。</p> <p>入居者の精神的平穏のため、音楽療法・フラダンス・詩吟・手芸等心身共に動かし活動や趣味等と有機的に組み合わせて毎日の暮らしが充実したものとなるよう取り組んでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>前もって入居者の生活経験・能力を把握しておき、梅のジュースや梅シロップ、ラッキョウ漬け等の保存食作りを入居者に教えてもらう等、個々の能力を尊重した取り組みを行なっている。</p> <p>面会簿は個人ごとに設置し、パソコンに付いてもパスワードを毎月変更している。フロッピーディスク等は自宅へは持ち帰らず、不要な書類はシュレッダーに掛けるなど個人情報を守るための細かい取り決めがある。</p> <p>事務室の鍵が掛かる場所に入居者の個人の記録類は保管されている。また、個人情報に関する守秘義務は、研修生・ボランティアの人にも良く説明して徹底している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>外部研修は月1~2回あり、全スタッフが受けられるように順次回り持ちで参加・出席するようにしている。全員がその内容を共有し、内部勉強会に利用するようにして介護資質の向上に努めている。</p> <p>年2回、防災訓練を実施し、入居者・職員はもとより、地域の婦人会・町内会の人々も参加して消火器の使い方等を訓練している。地域との協力体制・連絡網を作り、災害に備えている。</p> <p>夜間は各ユニット1名ずつ職員を配置して2名の体制で対応しているが、入居者の体調異変・緊急時には3名体制にして入居者の安全・健康保全に備えている。同一敷地内にあるデイサービス等の施設間でも、しっかりと連携がある。防災・衛生管理については、直ちに連絡・協力して入居者の健康と安全を守っている。</p> <p>事故報告書には、トラブル・ヒヤリハットをも含めて詳細に記載し、職員全体で対応策を話し合い、発生原因・因果関係を究明している。報告書には責任者からの具体的指示が明記されており、事故・トラブルの未然防止及び発生時での適切な支援対応により不安や混乱を最小限に食い止めるように努力している。</p>		